

平成 30 年度 出前懇談会 会議録			
地 区	前津江 地 区	市長・副市長の出席	市長・副市長
日 時	平成 30 年 10 月 9 日（月）19:30～21:25	場 所	前津江公民館
地 区 参加者	吉田地区理事（大野自治会長） 佐藤出野自治会長 渡邊赤石自治会長		計 26 名
担 当 グ ル ー プ	リーダー	梶原 土木建築部長	副リーダー 梅野 会計管理者
	プレゼン テーター	相良 社会福祉課長 渡辺 財政課長	連絡調整担当 河津 前津江振興局長
	書 記	橋本 咸宜園教育センター長 、日野 中央児童館長	
	構成員	梶原 経営管理課長	
	その他		
議 題	テ ー マ		説 明 者
	1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～		相良 社会福祉課長
	2. 「土砂災害警戒区域」とは、		渡辺 財政課長

1. 「防災・減災の取組」～それぞれの取組～
2. 「土砂災害警戒区域」とは、

(意見)

- ・避難場所は、学校や元学校が避難場所に指定されているが、校区が広いので避難するのに時間がかかる。各地区のコミュニティーセンターに避難した方が良いと思うが、果たして安全かどうか分からない。これまでの災害で市内では、どれくらいの方が避難しているのか。

(回答)

- ・避難している方は、約 7～8 割だと思われる。ただし、中心部は 5%程度では。避難場所については、現実に合った避難場所が良いので、連絡さえとれば個人宅を自主避難所として登録しても良い。

(意見)

- ・今後、地域でどこに避難すれば良いか検討したいが、避難の基準を教えてください。

(回答)

- ・避難指示は、気象庁からのデータで判断して出すこととしている。外れても出す方向で考えているが、今後は日田市独自のやり方で区域を小さく分けて出すことも考えている。地域の中で安全な避難場所を探しておいてもらいたい。
- ・要支援者を避難させる場合、個人情報の問題がある。吹上町の場合は、前もって了解をとっておき、1名に対して2名が担当し避難させるようにしている。市からも提案はするので地域で検討してほしい。

(意見・要望)

- ・気象について、古くからの言い伝えや情報を住民と共有したいと思う。
- ・消防団は夜間は出勤しないと決めているので、夜が明けてから道路状況の確認をしている。
- ・私達（赤石）の避難所は遠いため、コンテナハウスを確保している。
- ・平成28年の地震では、鎌手からの県道が土砂崩れで通行止めになったので、竹の迫林業専用作業道を有事の際、迂回路として使用できないだろうか。もう一つの林道「曾家中西線」は県が整備したが、中津江側の一部は維持管理ができていないのでなんとかしてほしい。

(回答)

- ・林道はたくさんあり、全部整備するのは大変なため、今後どうしていくかが課題である。土砂災害の調査を一通りしてきているが、この地域は、土砂災害が大きいと思われる。ほとんどがイエローゾーンであり、今の振興局もイエローゾーンになっている。振興局の位置について地元はどう考えているのか教えてほしい。

(意見)

- ・地元としてはイエローゾーンが多いため、振興協議会で討議して意見をまとめて市長と協議したいと思っている。

(意見・要望)

- ・赤石小の体育館が避難所になっている。今年壊すと聞いているが、それに代わる避難所を計画していると思う。H31年度設計、H32年度完成としても時間がかかるので、その間はどうか。H32年度早期に完成をお願いしたい。

(回答)

- ・新たな自主避難所については、地元が安全な場所を確認して、早めに判断してほしい。その間の避難場所に関しても、早急に安全な場所を考えてほしい。

(意見・要望)

- ・スクールバスの運行について、大きな石、雪等で通れない場合、県道は早めに対応してくれるが、市道は対応が遅い。何かいい方法はないのか。

(意見)

- ・学校から地元の方に道路状況を確認しており、通れないところは保護者が途中まで送って、安全な場所で待機することになっている。

(意見)

- ・今回の懇談会に若者の参加が少ない状況は考えないといけないが、放送をあまり聞いていないのではと思うので、メール等で情報を流せないか。

(回答)

- ・地域内の情報や町内の情報の発信時等に市が運用を考えている防災無線ラジオを利用して、町内の情報も流せないものかと考えている。自治会の中でも連絡がとれるようにしたいので、情報をどうするかが課題である。

(意見)

- ・今は、自治会長が各班長に電話で避難状況等の連絡をしている。

(回答)

- ・今ある設備（防災無線の拡声子局）を有効に活用してもらいたい。

(意見・要望)

- ・出野交流センターが避難所となっているが、指定管理が平成 32 年で終わる。その後は地元管理になると聞いた。学校跡地は更地になると聞いている。市管理の避難所はここしかないので、地元住民としては、交流センターは市の管理で行ってほしい。普通の民家は避難所になるのか。

(回答)

- ・指定避難所にはならない。一時的な避難所である。

(意見)

- ・平成24年の災害時の経験から、周辺部の災害対応としてはそれぞれの家の状況が違ってくるから、避難に際して振興局から特に危険な地域の1戸1戸に電話連絡をしてもらった。やはり振興局が頼りになる。
- ・柚木地区は浮羽から消防が来たほうが早いので連携をとっている。6、7月ごろ地元で避難の方法を1軒1軒話し合いをしている状況である。年1回は振興局や自治会がリーダーとなって住民の意識づけをすることが大切だと思っている。

(回答)

- ・図上の防災訓練でも良い。高齢者や家の状況等を考慮して垂直避難ができるものか、防災士と相談して避難場所を決めてほしい。

(意見・要望)

- ・木材の搬出をする時に作業道を作ったために、山崩れが起きている。市は、森林組合と話し合っ
て木材の搬出方法を考えてほしい。

(回答)

- ・すでにその話は聞いている。索道に変えたほうが良いということだが、索道は補助金が出ない。
作業道であれば補助金が出ている。作業道を入れていい場所、悪い場所を考える必要がある。

(要望)

- ・林野庁に相談しているので、市長からも索道に関して補助金が出るように要望してほしい。

(質問)

- ・予算化された災害復興の執行状況はどうなっているか。

(回答)

- ・市が管理する道路や河川の災害復旧事業については、災害事業の9割以上が業者に発注済みである。国、県の事業が優先で、市の事業が後になっている状況で半分くらいは完了している。今後発注予定は3割くらいである。来年の出水期までの完成を目指している。

(意見)

- ・地域の高齢化を心配している。災害時に頼りになるのは消防団であるが、昨年の災害時の消防団

員の死亡事故をうけて、市として消防団員への指導を行ったのか。また、消防団員の確保、高齢化に対しては、何かサポート等は考えているのか。

(回答)

- ・若い団員も入らない状況であり、今のままでは、山村地域の消防団員の確保は難しいと思う。そこで、自主防災組織をどうするか。将来、人口減、高齢化の問題はどの地域にも考えられること。みんなで取り組まなければならない課題だと思う。現実を受け止めて、何ができるかを考えていかなければならない社会がきている。コミュニティー全体でケアしていく方法を考えていく事や、若者が地元に戻ってくるような手立て（働ける場所の確保、事業の継承等）も必要だと思う。

(意見・要望)

- ・市長が希望をもって、市の力で地域を前向きにする施策を考えてほしい。なんとかするのが市長の仕事ではないか。

(回答)

- ・実際にできることと、できないことがあるが、地域の環境を最大限に利用してスノーピークの活用や、羊を飼って羊毛をとる等、地域の中で考えて、声をかけてやってほしい。

(要望)

- ・地元の防火水槽が土砂災害で埋まってしまった。振興局に土砂撤去をお願いしたが、予算がないということでもしてもらえなかった。（地元で作った防火水槽であり、防火水槽の登録がない）消防団に手伝ってもらい何とか撤去することができたが、今後、川の近くでもあるため災害の都度、土砂で埋まるようでは困るので防火水槽の整備をお願いします。

(振興局)

- ・現在、新たな防火水槽の設置を防災危機管理課には要望を挙げている。